



みはら 玉手箱



平成28年度講座 始まる

平成28年度は、以下の講座と各回におけるグループワークが予定されています。

回数	月 日	会場	内 容
第1回	5月29日(日)	A (注)	演題「沼田小早川氏について」 講師 三原市文化財協会会長 橋本敬一 先生
第2回	9月04日(日)	A	演題「毛利元就と小早川隆景」 講師 毛利博物館館長代理 柴原直樹 先生
第3回	10月09日(日)	A	演題「史跡横見廃寺跡について」(仮称) 講師 東広島市出土文化財管理センター センター所長 妹尾周三 先生
第4回	11月19日(土)	A	演題「山城は楽しい」 講師 城郭ライター 萩原さちこ 先生
	午前		
	午後	B	新高山城跡見学会
第5回	1月22日(日)	C	活動発表、閉講式

(注) 会場A;本郷生涯学習センター、会場B;新高山城跡、会場C;ペアシティ三原西館

<第1回の講座を終えて>

1. 講演「沼田小早川氏について」の要旨一部

(1) 沼田荘の成立 承平3(933)年、藤原倫実が藤原純友の乱を平定し、沼田7郷を与えられ楽音寺を建立した。倫実の子孫の沼田氏はこの地域を平氏に寄進して荘園とし、本下司職となり沼田荘を支配した。

(2) 小早川氏の沼田荘入部 元暦元(1184)年、頼朝の命を受けた土肥実平が総追捕使として備後大田荘、有福荘、安芸沼田荘、周防大島荘、長門阿武御領にて平氏を追討し、文治元(1185)年より守護・地頭としてこの地を治めたが、次第に縮小され、遠平の時代の文治5(1189)年には、沼田荘のみとなった。

(3) 沼田荘の小早川氏

沼田荘の構成

- ① 沼田本荘(小早川茂平)；沼田川流域の平坦地および都宇竹原荘
- ② 沼田新荘(小早川季平)；椋梨川流域の小盆地群

尚、文永3(1266)年の関東下知状では、茂平の新荘の惣公文職を認めている。

(4) 鎌倉時代 在京人 六波羅探題に奉公 茂平、雅平、朝平、宣平、貞平

(5) 室町時代 將軍奉公衆(御番衆) 春平、則平、瀬平、敬平、扶平、興平、正平、繁平、隆景



〔橋本敬一先生〕

2. グループ ワーク

平成28年度も、①情報発信グループ、②三原古写真収集グループ、③宮本常一写真収集グループ、④城下町体験グループ、⑤三原遺産研究グループ、⑥城館体験グループおよび⑦市民学芸員運営グループの7つのグループ毎に目標を立てて活動することを申し合わせました。

みはら おもしろクイズ



(解答は3/9頁の欄外にあります)

みはらの夏の風物詩「半どん夜市」

毎年、三原駅近辺で6月から7月の土曜日に開催されている「半どん夜市」は、おじいちゃんおあばちゃんも一緒に、家族で暑い夏の夕涼みを楽しむほほえましい行事になっています。

この種行事が長い間継続されるのは全国的にも珍しいとして大手新聞で紹介されたこともあります。主催者や関係者にいろいろ教えていただいたので、報告します。

今年

今年も、土曜日の夕方6時から以下の3箇所で開催されました。

(ア) 本町中央通り・本町一丁目・帝人通り商栄会 … 6月11日、18日、25日、
7月02日、09日、16日、23日、30日

(イ) 宮沖商栄会 … 7月30日

(ウ) 浮城東通り商栄会 … 8月06日



〔屋外テーブルでの飲食〕



〔手製の的当てゲーム〕



〔緋鯉釣り〕

時代とともに…

(1) 始まり … 大正14(1925)年頃に本町2・3丁目商店街から始まったといわれています。
以後、夏の風物詩として親しまれ、地域の商栄会・町内会が主体になって運営されてきました。

(2) 実行委員会の設置による出店数と出店商店街の増加

平成14(2002)年、商店街の空洞化や高齢化に伴い、運営に苦慮する地元商栄会・町内会の活動を支援するため商工会議所青年部会が中心となって「夜店発展実行委員会」が設置されました。

実行委員会では、**三つの基本コンセプト**（三原市民のための夜市、子ども達に夢を与え

る夜市、**道徳・文化を伝える夜市**)を設定して、運営負担の軽減と出店数の増加を図る方策として、チャレンジ出店(市内外の第三者による出店)の募集、夜店券の発行、スタッフ・アルバイトの募集、ホームページ作成による広報活動等で支援しました。

その成果として、本町中央通り・本町一丁目・帝人通りでは出店数が増え、平成15年には宮沖商栄会、平成16年には浮城東通り商栄会がいずれも年一回ながら半どん夜市に参加されています。

尚、平成16年の「半どん夜市実行委員会」への名称変更を経て、平成17年からは三原商栄会連合会が主管する実行委員会となり、現在に至っているそうです。

(以上、実行委員会のホームページと聴取内容からまとめてみました)

主催者側のつぶやき

1. 高齢化等の事情で出店者が減少しているが、残っている人の頑張りや、県立大学生等の応援もあって何とか継続している。実行委員会の発案による、外部からの出店(チャレンジ出店)を受け入れることには賛否両論あるが、伝統を守るためと活性化の為には、やむを得ない方策と考えている。(本町一丁目の人)
2. 本町・帝人通りの例を参考にして、我々の商栄会でも参加することにした。子ども達に生涯の思い出をつくってあげたいと強く感じたので、宮島神社の祭りに「子どもみこしの復活」とともに、夜店出店を決意した。子どもみこしは近隣町内会からの借用であるが、いずれ自前の子どもみこしを持つべく、商栄会の意気込みは高い。(宮沖商栄会の人)
3. 帝人通りの夜店には、チャレンジ出店で市外のフリーマーケット経験者等が、最新の出し物を紹介してくれるので、それを目当てに三原市外からも見物客が集まった。そして地元の人にも負けじ魂が芽生えたので、夜店全体に良い刺激となった。(実行委員の人)
4. 本町・帝人通りや宮沖商栄会の例を参考にして、我々も夜店参加することにした。本町・帝人通りの様に道路の通行止めはできないが、大型店舗の駐車場を借用できたので、2月の神明市と8月の第一土曜日と年二回夜店を出している。40歳台の人が中心であるが年二回だから何とか継続している。(浮城東商栄会の人)

半どん というのは??

午前中だけで業務や授業を終了し、午後は休みという意味の「半どん」「半ドン」との呼び方のいわれには諸説あります。

- (1) オランダ語で休日をさすzondagという言葉から、半分休み、即ち半ドン…広辞苑等
- (2) その昔、時を知らせる太鼓の音が、平日はドン・ドンと2回叩かれるが、土曜日にはドンと1回だけだったことによる…三原半どん夜市実行委員会
- (3) その他、時を知らせる大砲の音とか半分休みの土曜日だから半土などなど。

おもしろクイズ

週休2日制になって、現在では「半どん」という言葉は死語になりつつありますが三原の子どもたちには、よく理解して欲しいものです。

さて、半どん夜市で地元の出店に協力して外部の人が出店することを、何と呼ぶでしょうか？(ヒントは本文に記載されています)

- (ア) ボランティア出店 (イ) チャリティー出店 (ウ) チャレンジ出店



三原のお祭り



大和町 花田植 大具

「花田植」と言えば、北広島町「壬生の花田植」が有名で、昭和51(1976)年 国の重要無形民俗文化遺産として登録、平成23(2011)年 ユネスコの無形文化遺産に登録されました。

ここ三原市にも「花田植」があるので紹介します。

場所は三原市大和町大具^{おおぐ}

日時は6月の第1日曜日

今年は6月5日(日曜日)10時30分頃からでした。

1. 「花田植」とは

もともと広島県北西部の農村地帯に、古くから「囃し田」と呼ばれる行事が伝えられていました。

江戸時代後期から明治にかけて大地主の田で行われた「大田植」は農作業の変革期に米を効率よくたくさん作る事が重要視されたため、多くの地域で廃れました。

しかし、昭和初期の郷土芸能再興の時期に商工会等により復興され、戦争による中断を経ながら戦後にふたたび復活、北広島町で「壬生の囃し田」「川東の囃し田」が再興されて、その衣装や飾りが華やかで美しいことから「花田植」と呼ばれるようになったそうです。

「囃し田」(はやしだ) 民俗芸能の一種で、太鼓、すりささら、笛、銅鉦子(どびょうし)などで囃しながら行う田植行事です。
現在中国地方の山間部に残り、地方によりサゲ田、田囃子、花田植、大田植などの名で呼ばれている。
古くは全国的に行われ、名主(みようしゅ)の門田(かどた)や、地主の大田、神社の神田などの特殊な規模の大きな田植で見られました。
田植を楽や歌で囃すことは、秋の実りにより豊かにする呪術で、照葉樹林文化圏共通の儀礼と思われ、ネパール、チベットや韓国の珍島(ちんとう)などでも見られる。
ブリタニカ国際大百科事典

2. 花田植の役者

田植え自体を労働というより神事として捉え、農耕行事「囃し田」を行う「田楽団(飾り牛・立人^{たちうど}・囃し方・早乙女)」、サンバイの親歌を引き取って早乙女たちが、子歌をうたう掛け合いの田植歌、苗を運ぶ綱引きさんの「立人」、田の神様を演じ、全体を仕切る「サンバイ」、大太鼓・小太鼓・笛・手打ち鉦の「囃し方」、紺の着物に襷がけ、美しく装った「早乙女」たちの田植、花鞍に幟を立てた「飾り牛」の代掻き^{しろか}など見どころ満載です。

3. 大具の花田植

さて、三原市大和町大具の花田植は、20年位前から2・3年おきに地域のコミュニケーションを図る場として早乙女を募り田植を行っていたそうです。

花田植を経験した事のある高齢者に聞き取りをして、口説きの節回しもテープに残し、手探り状態でしたが細々と引き継いで来られたそうです。平成21年頃から今の形にして行うこと数年、最近は



[早乙女たちの植える花田植]

協力者も年々増えて、何とか格好がつくようになったので、来年は張子の飾り牛でも作ろうかと、話しておられました。



[大具の田植歌を唄う長老]

4. サンバイ役を務める代表に聞く

代表者の挨拶に続き、お囃子の太太鼓のリズムに合わせて、口説きの田植歌が流れる中、「早乙女さん、よろしくお願ひします」との合図により、子どもと女性による20名の早乙女たちが田植を始めました。

途中、3回の休憩を取って、早乙女たちは腰を伸ばしながらも、2時間足らずの時間で植え終わりました。



[畦に置かれた道具]
(柄ぶり)

また、サンバイ役を務める代表さんに聞くと、「昨年まではコンバインで刈っていた稲刈りを、今年は昔ながらの手で刈



[藁棒塔]



[はで干しの稲]

る風情ある方法を取り入れ、はでに架け、干して脱穀し、あとの田圃には藁棒塔も作り、秋にはこの餅米で紅白のお餅を搗いて皆さんにお配りしたい」と話されていました。秋祭りも見たいですね。

5. 田植歌

田植歌は実際の田植などで歌われるのは勿論、田遊や御田植神事、囃子田・田植踊などで歌われます。かつて田植作業は単なる労働ではなく、大事な神事儀礼的な民俗行事でもあったから、必ず歌を伴っていました。



[田植えを終えた早乙女たち]

大具の田植え唄

- | | | |
|--------------|--------------------|----------------------|
| 1 今日の良い日じゃ | 日柄も良いし
日柄も良いし | 植えておくれよ
植えておくれよ |
| 2 植えておいたら | 穂に穂が咲いて
穂に穂が咲いて | お米がなるよ
お米がなるよ |
| 3 取れたお米を | 三宝にのせて
三宝にのせて | 安芸の宮島
安芸の宮島 |
| 4 安芸の宮島の | 回廊の橋は
回廊の橋は | いつもどさどさ
いつもどさどさ |
| 5 いつもどさどさ | どさめく音が
どさめく音が | 千里聞こえた
千里聞こえた |
| 6 千里聞こえた | お前さんの声は
お前さんの声は | 地声立ち声
地声立ち声 |
| 7 地声たちの声は | 稲谷川の
稲谷川の | ウグイスの声
ウグイスの声 |
| 8 ウグイスは又 | からこまいけど
からこまいけど | 経の字を読む
経の字を読む |
| 9 経の字は又 | 一時も読めぬ
一時も読めぬ | 七日苦勞した
七日苦勞した |
| 10 七日七夜の | 苦勞するよりは
苦勞するよりは | わしに問いんされ
わしに問いんされ |
| 11 わしに問いんさりゃ | 一字や二字は
一字や二字は | 教え参らす
教え参らす |
| 12 参いりゃよござんす | がここから拜む
ここから拜む | お伊勢お山を
お伊勢お山を |
| 13 お伊勢お山にゃ | わが子よう似た
わが子よう似た | 花が咲きます
花が咲きます |

石碑が語る三原の歴史

JR三原駅の北側に三原城天主台跡があります。三原駅は三原城本丸を貫いて建設されました。明治の富国強兵のさなか致し方なかったとはいえ惜しいことですが、新幹線の下にも当時の石垣を見ることのできる珍しい駅?となっています。来年、平成29(2017)年は、築城450年ということで、堀周辺も着々と整備され、企画も種々考えられているようです。

駅の西口を抜けると隆景広場と名付けられたロータリーがあり、中央に木々に囲まれた場所があります。そこには天主台の石垣をじっと見つめる銅像が建っています。この地に三原城を築いた小早川隆景公です。この像は沼田東町にある小早川家の菩提寺米山寺所蔵の国重要文化財、絹本著色小早川隆景像をモデルに造られたものです。今回はこの米山寺に足を運びます。

道 標



[三太刀の道標]

川向
米山寺道



[2~4番目の道標]

右
米山寺道



[最初の道標]
(碑頂なし)

右
米山寺道

道標寸法		単位 cm
	三太刀	2~4番目
横	24	19
奥行	21	16
高さ	114	95

三原バイパス新倉出口から沼田川沿いに2号線を本郷方面へ進むと、七宝橋、本市橋の次、納所橋に「三太刀」というバス停があります。すぐ北に無残にも削られた古代古墳、中世館跡の複合遺跡三太刀古墳が見えます。橋の北詰に「川向米山寺道」の道標が新しい台座をしつらえてもらってしっかりと立っています。東面には「廣島胡町土肥氏建之」西面に「當山十二世代」この5月に晋山式を終えられたのが十九世だそうですから、明治の初めころでしょうか。

この道標に従って橋を渡り南へ山に向かって進みます。200m程進むと四叉路に写真右の道標、「右米山寺道」裏面には「備後引野土肥日露之進建之」。これ以降の数百mおきの三叉路に写真中央の頂の尖った道標が3柱、これらの道標に従って、無事に米山寺に到着です。土肥日露之進さんは、小早川家の祖の土肥実平に連なる方なのでしょう、米山寺に絵の奉納もされていると先代住職さんから伺いました。元々は、戦後広島大学近くで古書店を営まれていたそうですが、昭和30年代に福山市引野町に越され、古文書を解読して稿本の状態で製本、それを「小早河家蔵書」と名付け、福山市立図書館に寄贈、369冊に及ぶ「土肥文庫目録」として一般公開されているそうです。郷土史の著書もあり功績を残された方の方のようです。昭和43年63歳で亡くなられています。

句碑・詩碑



〔表面〕



〔裏面〕

横	227 cm
奥行	9
高さ	113
台座高	34

墓所へ向かう石段を上った右手奥に、菅茶山文学碑が建っています。

神辺出身の菅茶山は江戸時代後期の漢詩人で、この詩は代表的な詩集「こうようせきようそんしゃし黄葉夕陽村舎詩」の中にある「米山寺拜謁小早川中納言肖像」と題した詩です。隆景公が朝鮮の碧諦館で勇名をとどろかせ凱旋した翌年の文禄3(1594)年に描かれた寿像に、京都大徳寺の塔頭、黄梅院の玉仲宗琇が賛をした掛軸を拜謁した時に作った漢詩です。

画中の衣冠の公卿姿に英雄の風格を見、武将としてだけでなく知将として、毛利を守るのみならず、学校を興し、武士庶民、青年たちを学ばせた文徳の尊きを知っているかと謳いあげています。隆景公の人間的な魅力までも想起させる、公を慕う茶山のあふれる想いが伝わります。

裏面には昭和56(1981)年7月1日の建立に際して、富士川英郎東京大学名誉教授の解説があり、碑前に副碑として同教授の読み下し文が刻まれています。

(この碑は「みはら玉手箱」第2号でも紹介済です。ご参照ください)



〔三原市史跡 小早川家歴代墓地〕



〔県史跡 17代隆景公の墓〕

ずらりと並び小早川家歴代のお墓にお参りしました。宝篋印塔20基が整然と並んでいます。小早川家初代実平から17代隆景までと、源氏三代の供養塔、特に左奥の供養塔は元応元(1319)年の銘があり、国の重要文化財に指定されています。隆景公の墓は右前列で県史跡に指定されています。居並ぶ宝篋印塔を前にして、400年に亘って沼田地方に君臨した小早川家の繁栄と氏寺米山寺の七堂伽藍十二坊と謳われ栄えたかつての姿を、思い起しました。

6月12日は隆景公の命日です。今年も420回忌の法要が米山寺の墓所で執り行われました。文禄4(1595)年秀秋に家督を譲り、三原城に隠居した2年後の慶長2(1597)年城内にて急逝。

黄梅院殿三品泰雲紹閑大居士 享年65歳

450年前、築城を祝って領民が踊り始めたといわれるやっさ踊り、当時の人々も築城を誇らしく晴れがましく思ったのでしょうか。今年も法要の後、墓前でやっさ踊りが披露されました。

記念碑



[表面]



[裏面]

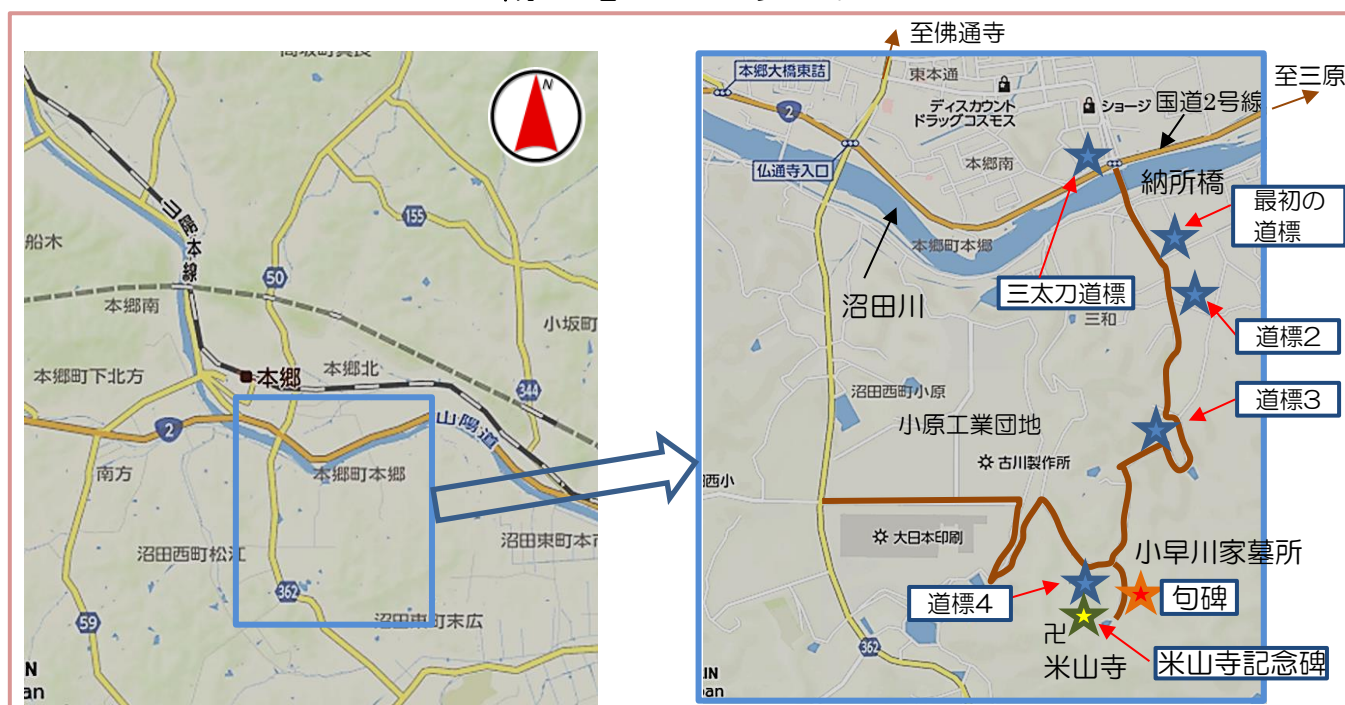
碑	横	75 cm
	奥行	29
	高さ	207
台座		121×60×42 cm
自然石台座		240×185×40 cm

米山寺の山門脇に「小早川家菩提寺 曹洞宗 米山寺」という寺号碑が建っています。かなり大きなものですが、それ以上に圧倒的に迫ってくる迫力のある文字です。この文字を書かれたのは、榎崎一光という方で、あの須波波止を造った榎崎正員に連なる人です。

榎崎一光老師は大正7(1918)年広島県向島で生誕。峻厳なる孝如老師(父)のもと、日々精進努力をし、書道に於いては弘法大師流入木道正統を相続。実に小学校二年で、「精華」の二字行書が天覧の榮に浴す。(大玄一光大和尚行蹟より抜粋)

平成5(1993)年、大本山永平寺の副貫主に就任され、同7(1995)年、宮崎奕保貫主の代理で広島県立総合体育館において、梅花流全国奉詠大会に出席されたおり、碑の文字を書いてもらったと米山寺ご住職に伺いました。

概略マップ





三原にある狛犬



今回も、鷺浦地区の狛犬を紹介します。（神社の由緒説明文は広島県神社誌による）

39. 八幡神社（亀山八幡神社）

三原市鷺浦町向田野浦1703

豊田郡角南村の住人、丸山相模守源歳国（宮司西原家の祖）と申す者が勧請したと伝わります。正五位丸山相模守源歳国は京都御所に仕えたが、弘安5(1282)年備後国栗原に冤罪で流され、後に許されて同7年に角南に移住しました。当神社は弘安年間に京都男山八幡宮（石清水八幡宮）より御分霊を勧請して祀ったのが始まりと伝わります。明治2年社地を拡げ拝殿を改築しました。

尚、特殊神事として祈年祭の「お弓祭」が、例年2月11日（かつては1月11日）に斎行されますが、この祭りにつきましては、「みはら玉手箱」第15号をご覧ください。



[鳥居前]

(単位：cm)			
	高さ	幅	奥行
阿形	106	40	69
吽形	108	38	71
年代	安政4(1857)年		
石工	山城屋 惣八		
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		



[鳥居前]

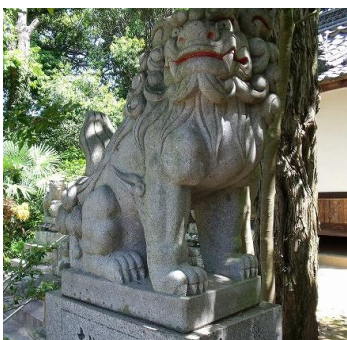


[参道中段]

(単位：cm)			
	高さ	幅	奥行
阿形	96	35	65
吽形	91	35	66
年代	文政元(1818)年8月		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	お座り型		



[参道中段]



[本殿横]

(単位：cm)			
	高さ	幅	奥行
阿形	95	46	72
吽形	92	42	70
年代	平成7(1995)年10月		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	お座り型		



[本殿横]

39-1. 穀神社（八幡神社の摂社 …神社の資料では穀津神社）



[拝殿前]

(単位：cm)			
	高さ	幅	奥行
阿形	78	28	50
吽形	81	28	50
年代	不明		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		



[拝殿前]